

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015/5/1		
所属学部	法経学部		
所属学科・専攻	総合政策学科	学年	4

1. 留学先について

留学先大学名	インドネシア大学		
留学先所属学部等	経済学部		
留学期間	出発日 20140817	入学日 20140825	修了日 20150131 帰国日 20150213
住居	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート等 <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
	通学時間	25分	<input type="checkbox"/> 大学の紹介・あっせん
	通学方法	徒歩	
	部屋のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> ()人部屋 <input type="checkbox"/> 共同スペース有 () <input type="checkbox"/> 無	
食事	自炊 40 %	学食 20 %	外食 40 % その他 () * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	東京海上日動火災保険	
	大学指定の保険(名称)	<input type="checkbox"/> 強制加入	
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)		
	成田	⇄	ジャカルタ(飛行機) ⇄ デポック(タクシー)

2. 留学にかかった費用について

総費用	70万	円	* おおよそでかまいません。
出処			
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト 円 <input type="checkbox"/> その他 円
援助	<input type="checkbox"/> 両親 0	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚 円 <input type="checkbox"/> その他 円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO	円	<input checked="" type="checkbox"/> その他名称 () 70万 円
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他 () 円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金 5万	円	<input type="checkbox"/> クレジットカード 円 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学中	<input type="checkbox"/> 海外送金	<input type="checkbox"/> キャッシング	<input checked="" type="checkbox"/> その他 () りそなVISAデビット

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	なし
住居にかかった費用	アパートの管理人
その他	ほぼ現金

2-3. 内訳 * 外貨と日本円に換算した金額を両方記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)		—	126664	円
海外旅行保険		—	94310	円
OSSMA		—	21600	円
査証・在留許可証		2500000	25000	円
住居	ルピア	10000000	100000	円
食費	ルピア	10000000	100000	円
通学に要する交通費		0	0	円
教科書、教材費	ルピア	1400000	14000	円
その他大学に支払った経費		0	0	円
光熱費		2000000	20000	円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面 *必ず留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ex. 正規、聴講	単位数	単位認定の有無
1 Indonesian Economy	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 Economics Development	正規	4	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Public Sector Economics	正規	5	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Human Resources & Labor Economics	正規	6	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
5			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

授業が始まる一週間前に、オリエンテーションでシラバスを渡され、その場で用紙に記入して提出。留学生は半年に4コマまで履修できる。私は事前にシラバスを問い合わせていたので良かったが、他大学の友人は戸惑っていた。履修科目の修正は、学部の学務に申請すればできる。

3-2. 授業内容、方法に関して

- ①インドネシア経済・・・クラスを3人ずつの班に分け、半年に2回インドネシア経済について与えられたテーマでプレゼンをする。(インドネシア経済史・農業・金属・工業・労働など)
- ②公共経済・・・クラスを3人ずつの班に分け、半年に1回インドネシアの公共経済について与えられたテーマでプレゼンをする。(金融政策・財政政策・貿易など)
- ③開発経済学・・・先生がテキストに基づく講義をする回と、グループプレゼンテーションの週があった。貧困・人口・環境・産業構造など。
- ④労働経済学・・・先生が单元ごとに講義。半年に2回レポート提出。人材投資、失業者対策、賃金、家庭労働などがテーマ。日本とインドネシアの労働環境の違いがよく分かった。(中流から上流階級の家では家のメイドを月2万円で雇い、母親が外で働く方が効率よく稼げる、

3-3. 語学力について

- ①英語・・・留学前はスピーキングとライティングに悩まされると思っていたが、思っていた以上にリーディングやリスニングの力不足を感じた。インドネシア大学経済学部International Courseの学生は小・中・高とInternational Schoolを出た人も多く、英語の文章を理解するスピードが速かった。リーディング対策としてテキストや興味のある論文を探して読むうちに、読むスピードが速くなってきた。リスニング対策としてはTEDを聞いたり、NHKworldのニュースを聞いた。ライティングやスピーキングも大変だった。授業でグループワークをしたり、プレゼンテーションをする機会が千葉大学に比べて多く、Publi Sector Economicsでその場で事例を出されてそれに対する政策を考えなさいと言われたとき、政策や実効性、批判などを頭で思いつくのに英語に表現できずもどかしい思いをした。考えたことを頭で整理して英語で話す練習を授業内外でし、日本語で考えて英語に変換するのではなく少しずつ英語で考えられるようになった。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館は中央図書館と学部の図書館があった。特に中央図書館はきれいで、目の前に湖があり、自習室でよく課題をした。本の充実度は、PCはappleで揃えてあった。学生は学内の自転車を利用し放題で、駐輪場の管理人のお兄さんに学籍番号を伝えると、他の駐輪場まで乗って行ってよいらしい。私は道がぼこぼこしていて転びそうだったので、毎日歩いていた。(利用していた通用口から学部まで徒歩25分ほど)。スクールバスも大学を一周しており、雨が降ったときや急いでいるときに利用した。たまに、学内にいるバイクタクシー(オジェック)のおじさんの後ろに乗せてもらっていた。また大きな行動が学内にあり、アジアの文化交流会や入学パーティーなどが開かれ、ことあるごとにインドネシア舞踊を見られたのはいい経験だった。

4. 生活面 * 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。書ききれない場合には別紙等に続けてください。

4-1. 住居について

インドネシア大学の留学生はアパートか下宿を選べます。私はアパートの10階にすんでいました。外観・内観ともきれいでした。千葉にいたときの一人暮らしをしていた部屋より、ランクが高いのではないかと考えています。部屋に冷蔵庫やテレビ、テーブル、ベッドなどが付いていますし、アパートにはプール・コンビニ・食堂・洗濯屋さんが入っていました。プールでは暑い時期は週一で泳いでいました。(厳格なイスラム教の方はヒジャブを付けたままプールや川に入ります)。蚊が部屋に入ってくるので、日本から部屋用のスプレータイプのベープを持って行って朝晩スプレーしていました。またアパート敷地内にモスクがあり、初めは大音量のお祈りに驚いていましたが、このアザーンは段々耳に心地よいものになっていきました。

留学生以外にも、インドネシア人学生、一般の入居者(家族、カップル、単身など)が住んでいました。彼らとの交流があまりなかったのは少しさびしいです。アパートの警備員とはよくインドネシア語の練習をするために話していました。「彼氏はいるのか」「日本では音楽は何が流行っているか」聞かれたり、「インドネシアの有名な歌」などを聞きました。

4-2

◎インドネシア料理は少し辛いですが、日本人の口に合うと思います。(醤油や塩などの味付け)朝は夜ご飯の残りのごはん、昼は学食でナシゴレンというチャーハンで100円、鶏肉の醤油だれ焼きとご飯で130円、ソトアヤムというスープカレーのようなものとご飯で130円、フレッシュフルーツジュース80円という感じで、おいしいです。夜は自炊で鶏肉のトマト煮や、煮物風、野菜炒めなどを作って食べていました。週に2回位、友だちとご飯を食べに行ったり、(ローカル食堂で150円くらい)(洋食屋さんのミートスパゲッティ500円くらい、マクドナルドのチーズバーガーセット600円くらい)、月に1回友だちを呼んで日本・タイ・韓国などの持ち寄りごはん会をしていました。

×食べ物に気をつけていても、2ヶ月に1回はお腹を壊す
インドネシア人の胃は日本人の10倍細菌に強いという話もあるくらいです。ローカル食堂だと、お腹いっぱい食べても一食100円から300円でとても安い。そして私の感覚ではインドネシア料理は日本人の味覚に合い、おいしい。しかしお腹を壊します。ジャカルタに日本語対応の病院があるので、留学中病院に3、4回行きました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

アパートで月ごとに契約をしていました。停電をしない限り、アパートの中ではネット環境には困りませんでした。

しかし、それでは外出中通信ができないので現地で1万4千円のLGの携帯電話を調達し、SIMカードを買ってプリペイド式のPULSAというものにチャージしていました。(電話とネットで月500円くらい)。ノキアなどであればもっと安く調達できるかもしれません。

大学内のWifiのパスワードも与えられましたが、ほぼつながりませんでした。

4-4. 服装について

Tシャツ、長めのズボンが基本で、冷房対策でパーカーやカーディガンも着ていました。スカートなど日本で着るような「女の子っぽい洋服」はあまり持っていきませんでした。また半年も留学するのに上下5着ずつしか持っていかなかったのですが、現地で安くかわいい服を買ったり、心配した友達が要らない服をくれたりするうちに帰国時には段ボールひと箱分船便で送るくらい洋服が増えました。普段着はあまり持っていかなかったのですが、念のため持って行ったスーツや浴衣が予想以上に活躍しました。(学生会議のようなイベントでスーツを着たり、日本祭や文化交流イベントで浴衣を着たり。)インドネシアの女の子はアメリカンなスタイルが好きなようです。(日本のようにふわふわしていない、韓国のスタイルとも近い感じです。そしておしゃれな人も多いです。)

4-5. 健康管理について

留学前も一人暮らしをしていましたが、私の健康管理のこつは「野菜をたくさん食べること」と「運動すること」でした。しかし、インドネシアではレストランで生野菜を食べたらよほど高級店でない限りお腹を壊しますし、ナシゴレン(炒飯)・ミーアヤム(鶏肉ラーメン)など、定番メニューでは野菜が少ないです。そしてスーパーで売っている野菜も生で食べる気にはなれませんでした。そこで、野菜スープや野菜炒めを作ってよく食べていました。また、お腹を十分にするため、YAKURUTOを買って(5本80円くらい)2日に1回飲んでいました。次に運動ですが、片道25分間の徒歩と、日々の生活を生きるのに疲れてしまう状況だったため、週末に泳ぐくらいしかしていませんでした。

4-6. 保険、OSSMAの利用 * 利用実績等をご記入ください

留学中6回保険を利用しました。保険会社の提携病院だったため保険証を見せればスムーズに治療を受けられました。腹痛・風邪・インフルエンザでお世話になりました。OSSMAは定期的な安全確認をしました。

4-7. 課外活動について

■課外活動(12月度留学報告より)

・カンボン(都市人口過密地域)の訪問

千葉大学で建築学を専攻している大学院生が、ジャカルタの人口過密地域で研究をしているので、そこに二回お邪魔しました。インドネシアに来る前は、都市下層民の住む地域という、本当に生活に窮しているというイメージが強かったのですが、予想していたのとは違って、その中に自主的に補習塾をする寺子屋の先生のような人がいたり、地域の環境(道路・下水道整備・洪水対策など)改善に住民が組織を作って取り組んでいたり、町がみんなでみんなを助け合っている雰囲気でした。寺子屋さんの先生になぜこんな活動を行っているか聞くと、「次の世代に役に立つなら、こんなにうれしいことはない」と言っていました。お金でも知識でも持つものが持たないものに施すのは当たり前、というイスラムの考えでもあるようです。以前からインフォーマル教育に興味があったので、こんな活動をしている人に出会えて本当に嬉しいです。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

■ボランティア

最後の二週間、中部ジャワスマランでワークキャンプをしました。風俗街で経済水準が低めの地域に暮らす、3歳から8歳位までの子どもに、マナー(挨拶・暴力をしない・人の話を聞く)教育・地元の小・中・大生との異文化交流が内容でした。子供たちは私たちと遊ぶことを楽しんでおり、マナー教育も浸透しボール遊びのルールに従って遊ぶようになりましたが、生活水準やそれに伴う教育水準の低さなど根本的な問題にアプローチすることはとてもできず、はじめから分かっていたものの、悩みました。ボランティア仲間と短期で出来ることは何か、公のすべき領域とボランティアがすべき領域とは、外国人がいきなりやってきて自分の子どもと遊んでいたら不信感を抱くのではないか、など話しました。子どもに注意する時の伝え方(理由がわかるようにする)などを改善していきました。それでも私たちが帰ったら子どもたちはルールに従うというルールや、友達を蹴らないなどということは忘れてしまうのではないかという懸念もあります。そうするとやはり地域の中で躰を誰がどのように行うかというところを詰めないといけなさと感じます。

4-9. 日本から持参してよかったもの

浴衣、折り紙、書道セットなど日本文化を伝えるものは友達作りにつながり、日本文化に興味を持ってもらうきっかけにもなる。しかし現地で手に入りにくい。どの国に行くとしても、持っていくと重宝と思う。常備薬。1回ショッピングセンターで貧血気味になって目の前が真っ白になったことをきっかけに、部屋に置いておくだけでなく、胃薬・頭痛薬・風邪薬・飲み物を持ち歩いた。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

ありません。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

×子どもの頭を撫でてはいけない、という文化がある。(頭に精霊が宿っているから)
△時間を守る意識は人によって違う。「インドネシア人は～〇〇」のように一括りにして国民性を見出そうとする危険性を痛感しました。
◎宗教のことについて、相手と親しくないうちは聞くのはタブーだが、親しくなったら、人によっては話題にすることができるかと分かりました。ただし、もちろん、相手を尊重し、聞くだけでなく自分の宗教観も伝えます。(日本人は特定の宗教に入っていない人が多いが、私は、心の支えとして、八百万の神のようなものを信じている、と伝えました。形は違えど、共有できる思いはありそうです。
◎日本人というだけで、興味を持ってもらえる。
△日本人というだけで、友だちになろうとし、私個人には興味を示してもらえないこともあり、さみしい思いもした(習慣の違いではなく、日本人も外国人に対してそうなのかもしれません。)

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

10/28-31 ジョグジャカルタ・ソロへ旅行。世界遺産のボロブドゥールや、プランバナン寺院、ソロではジャワ原人の骨が発掘されたサンギラン博物館を見学。費用:往復航空券込25000円
11/13-16 スマトラ島、メダン旅行。野生のオラン・ウータンの住む森を散策。(割とうっそうとしており道なき道も進みました)。世界最大のカルデラ湖、トバ湖に浮かぶ島、サモシール島を見る。費用:往復航空券込26000円
12/31-1/10 ジャワ島横断。大学のあるデポックから、アジア=アフリカ会議が開催された町バンドウン、日本人観光客はほとんど来ないが自然の美しさに心を打たれた海岸の街パンガンダラン、古都のジョグジャカルタ、ソロ、工業都市スラバヤまで陸路で旅。食文化・言葉・衣服・気候などインドネシア内の多様性に触れる。インドネシア語が通じるようになり、簡単な世間話ができるようになり、インドネシア人とコミュニケーションをとるのが楽しかった。長距離移動でバスに13時間揺られ、インドネシアの田舎の風景を見、田舎の食生活も味わうことができた。費用:40000円

5. 報告

5-2. 留学先大学について

■自然が多い
キャンパス内に5つの湖がある。緑が多い。

5-3. 留学中の様子

〈慣れるので精いっぱい8月〉

キャンパスへの行き方・学部等の場所・スーパーの場所など地理的な位置を把握したり、自炊用の調理器具を買ったり、携帯電話を買って通信環境を整えたり、通貨に慣れるので精いっぱいだった。一番困ったのは、英語の通じないアパート管理者に対し、アパートの家賃を支払うこと。日本からお金をあまり持ってきていなかったため、家賃を3か月分払うように言われたときにはどうしようかと悩んだ。(交渉して3日後に払うことに。)インドネシア語の本を肌身離さず持ち歩き、どこへ行くにもガチガチの緊張をしていた。そんな時、同じアパートに住むタイ人の留学生在が旅行に誘ってくれ、ジャカルタから船で1時間ほどの島で、他の留學生と交流を深めた。

〈いよいよ授業が始まった9月〉

英語ONLY,たまにインドネシア語の授業についていけるか不安だったが、テキストを予習していくと講義についていくのはそこまで負担ではなかった。ただグループディスカッションの時には伝えたいことが伝えられず、もどかしい思いをした。下旬に、偶然知り合ったインドネシア人学生から声を掛けられ、アジア太平洋学生フォーラムという会議に参加。「開発」に関する東南アジア諸国の学生の視点について、いわゆる途上国の学生であっても、知識階層である彼らの考える「開発」は、「援助」という意味合いで捉える人が多く、先進諸国の考える「開発」の意味とそれほど遠くないことを実感した。「どのコミュニティに属するか」ではなく「その人がどう考えるか」というところに目を向けようと思った。

〈憧れのジョグジャ・ソロと中間試験〉

高校の世界史の教科書で、ある土地の宗教がイスラム教に変わっても、ムスリムは以前覇権をとっていた仏教の寺院を壊さずに保存したという記述を読み、ボロブドゥールに憧れていた。また、インドネシアの土着の宗教に関心があり、日本のような八百万の神がいるイメージなのかと想像を膨らませ、スクー寺院を見学。イスラム教徒もキリスト教徒も仏教徒とも違った精霊信仰の現れた建造物を目にし、自然状況の中で折り合いをつけて生きるという面で共感した。中間試験はA-の評価が多かった。知識の暗記に終わらない学習を心がけるようにした

5-4. 留学希望者へのアドバイス

①郷に入ったら郷に従え、だけでは長期間の滞在を十分に生かし切れない。

確かに、異国の地でその土地の慣習や文化を知ろうとし、受け入れることは大事である。しかしせっかく知らない土地に行くのだから、日々気づいた疑問を、「ここではこうなのだから従う」と流してしまうだけではなく、疑問を親しくなった友達に聞いてみると、思いがけない発見をすることができ、長期滞在ならではの学びができる。(例:イスラム教徒の慣習について、なぜ日ジャブをかぶっているムスリム女性と被らない人がいるのかという質問から、なぜ一神教なのかというその人の生き方の根底をなすものについて、聞くことができた)

②履修登録、レポートの提出、VISAの更新などの締め切りはかなり余裕を持って取り組む。向こうで不備があり、必要な手続きができないこともあるため。

×Immigrationが面倒

月に3回VISAの延長の申請のために移民管理局に行かなければならない

大学の留學生課が申請のやり方は教えてくれるので、ちゃんと期限前に申請をすれば期限に遅れることはないが、少し面倒。

③留学の目的の明確化・留学先で目的を達成するための準備

「何を学びたいのか」をできるだけたくさん書きだし、その中で「掘り下げたい」と思うことに関連する資料をインドネシア留学前に集め、読んでいたことがすごく役立った。インドネシア人と会い、「留學生です」と自己紹介すると、必ずといっていいほど、「経済も文化も発展している日本からきて、いったい何を学びたいの?」と聞かれる。その時に学びたいことを伝えられるようにしておいたことで、アジアの開発に関する学生会議に参加させて貰ったり、同じような関心を持ち議論しあえる友人ができた。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

◎開発の真ただ中のインドネシアでは、物価が上がったり、VISAのシステムが変わったり、道路がどんどん作られたり、半年の滞在でも色々な変化を間近に見ることが出来ました。2014年は丁度大統領選挙もあり、国民の政治への関心も高かったのではないかと思います。友だちや、タクシーの運転手、店員などに「インドネシア政治をどう思うか」「ガソリン価格の上昇、保険制度に対する不満など」について聞くことが出来、日本で論文を読んでいるだけでは分からない生活の実感などを知ることが出来たのは良い経験だと思います。私は経済開発、都市開発などに関心があるので、インドネシアでの留学は開発学などの理論と現場を照らし合わせて見られた点でとても面白かったです。

◎都市の人口過密地域で、「地域全体で子どもを育てる」様子を見て、これが地域教育のあるべき姿の一つだと実感した。個々の家の経済状況はいいとは言えず、各戸1部屋しかない小さな空間で、大所帯で暮らしたりしている。玄関を空き放たれた、家と道路の境目が分からないようなところで、近所の子供を自分の子や孫のように思っている様子が見受けられた。

■ 留学を通して考えたこと・気付いたこと

留学前から卒業後の進路を悩んでいたのですが、留学をして自分が何をしたいのかをじっくり考えることが出来ました。Jam Karet (ゴムのような時間)のおかげかもしれません。

留学前、「社会には貧困、戦争、経済格差などたくさん問題があるが、その中で自分の専門を絞らなければならぬ」と考えていたにもかかわらず、留学生活を通して私の関心はどんどん広がっていききました。友達に相談したところ、「関心が広がるのはいいけれど、自分が専門として一番したいことがないのは大学生としてはどうなの」と言われ、自分の軸や信念などを考えてみました。すると私が教育・社会保障に興味があるのは、自分ではどうしようもできない問題を抱えている人の支えになりたいと考えていることが基になっていることに気がきました。そして私が困っている人を助けたいと思う理由は、構造的な問題のために苦しむ人がいるということをおかしく感じるのと、人々の不満がたまって犯罪や紛争につながることを危惧しているからだとなりました。社会的弱者のためのセーフティネットとしての社会保障、そして不安定な社会の中で生きるための「知識+学ぶ力」が身に付くような教育。教育も個々の人間の技能や社会の中で生きる力を身に付けてくれるセーフティネットと考えると大きい意味で社会保障なのだ。。。これが今まで私がうまく表現できていなかった「社会保障と教育」という言葉の中身だと気づき、嬉しかったです。そして今までは「～だと思ふ。」という感想を持つばかりで、理論に結びつけてどう対処するか探ることまではしていませんでしたが、思ったことをまとめるだけではなく、関連しそうな論文や書籍をさがして読むようになりました。学び→感想で終わるのではなく、思ったことを発展させて裏付けをとるようになり、学びと気づきが自分の知識と思考が双方向に補完しあう感じで、初めて学生になった気がしました(情けないですね)。現在は「社会問題がたくさんあるならそれぞれの問題に取り組む人が育てばよいのではないか」、「社会問題つまり需要のあるところに労働力が流れるような仕組みはできないか(需要のある介護関係の給料を上げないのはなぜか)」ということで、社会教育と経済政策の勉強に力を入れています。

6-5. その他の質問、意見、相談などあれば自由に書いてください。

留学前、留学中、留学後にわたり、留学の目標設定・進路相談などの内容面、留学の手続き・トビタテ！の書類の見直し・面接練習などの手続き面、病気・悩んだ時の相談という心理面で大きな支えでした。本当にありがとうございました。

お疲れ様でした

国際教育センター海外留学支援室 2015.2作成版